

障がい者・児の緊急時受入に関する実態調査概要

ちょうさ

もくてき

はいけい

調査の目的と背景

ちいきせいかつしえんきよてんどう

せいび

とく

きんきゅうじたいおう

む

じったいちようさ

- 地域生活支援拠点等の整備(特に緊急時対応)に向けた実態把握

たかくてき

してん

きゃっかんてき

じったい

はあく

とうじしゃ

かぞく

そうだんしえんじぎようしよ

- 多角的な視点から、より客観的な実態を把握し、当事者・家族や相談支援事業所の

なま

こえ

と

い

じっこうせい

きよてんせいび

きそしりよう

生の声を取り入れた実効性ある拠点整備の基礎資料とする

ちょうさたいしよう

かいとう

かいしゅうじようきよう

調査対象と回答・回収状況

じっしじき

れいわ

ねん

がつげじゆん

がつちゅうじゆん

およ だんたいきようりよく

ちょうさ

- 実施時期: 令和8年4月下旬～5月中旬(オンライン及び団体協力による調査)

たいしよう

かいとうじようきよう

- 対象3グループからの回答状況:

そうだんしえんじぎようしよ

じぎようしよ

べってんしりよう

- ・ 相談支援事業所: 32事業所 (別添資料①)

あおもりして

いくせいかい

とうじしゃ

かぞく

めい べってんしりよう

- ・ 青森市手をつなぐ育成会(当事者・家族): 15名(別添資料②)

あおもりけんじゅうしやうしんしんしやうがいじしゃ

まも

かい

とうじしゃ

かぞく

めい べってんしりよう

- ・ 青森県重症心身障害児(者)を守る会(当事者・家族): 6名(別添資料③)



Survey



かくたいしよう

ぐたいてき

ちょうさけつか

しょうさい

べってんしりよう

さんしやう

※各対象グループの具体的なアンケート調査結果(詳細)につきましては、別添資料をご参照ください。

緊急時の受入状況と利用調整難航・断念の実態

そうだんしえんじぎょうしょ じょうきょう

相談支援事業所の状況

ちょうせいじっせき けつか

調整実績と結果:

ちょうせい ひつよう じぎょうしょ の けん ちゅう うけいれけってい けん
調整が必要だった10事業所(延べ61件)中、受入決定は57件。

ちょうせいふちよう りよう

じったい

調整不調(利用できなかった)の実態:

の けん ちょうせい ふちよう
延べ4件で調整がつかず不調に終わる。

じぎょうしょ けんちゅう けん じぎょうしょ けんちゅう けん
(H事業所で10件中3件、J事業所で4件中1件)

ふちようじ たいおう にゅういんかぞく きょうりよく じたくたいきとう しの

不調時の対応: 入院、家族の協力による自宅待機等で凌いでいる実態。

しょくいんふそく うけいれたいせいみせいび けん

職員不足による受入態勢未整備(6件)

まんしょうあ けん
満床(空きがない)(5件)

こうどうしょうがい いりようてき たいおうふか けい けん
行動障害 や 医療的ケアへの対応不可(計4件)

とうじしゃ かぞく じょうきょう いくせいかい まも かい

当事者・家族の状況(育成会・守る会)

りよう だんねん じょうきょう て いくせいかい

利用できず断念した状況(手をつなぐ育成会):

きんきゅうりよう よう めいちゅう めい りよう だんねん けいけん
緊急利用を要した9名中、5名が利用できず断念した経験

あり。

こと あき とき めい まいかい あ
(「断られた(諦めた)時もある」が3名、「毎回どこも空いてお
りよう だんねん めい
らず利用できなかった(断念した)」が2名)

りよう だんねん じょうきょう まも かい

利用できず断念した状況(守る会):

きんきゅうりよう よう めいちゅう りよう だんねん けん
緊急利用を要した2名中、利用できず断念したケースは0件(2名とも「毎回、問題なく利用できた」と回答)。

りよう おも りゆう

利用できなかった主な理由:

- どにち しゅくじつ れんきゅうちゅう
・ 土日・祝日・連休中だったため
- いぜんりよう けいやく しせつ まんしょう
・ 以前利用した(契約している)施設が満床だった
- やかん そうちよう れんらく じかんたい
・ 夜間・早朝など連絡がつかない時間帯だった

拠点整備に向けた課題と今後の対応

こんかい ちょうさけっか み かだい

🔍 今回の調査結果から見えた課題

🏠 **確実な受入体制の構築(空床確保と広域調整)** 利用不可・断念の主な理由である「満床」「職員不足」に対応するため、緊急時専用の空床確保の仕組みや、市を跨いだ広域調整の仕組みの構築が求められている。

🗣️ **24時間365日の相談・連絡体制の整備** 夜間や休日に突発的な事態が起きた際、確実に繋がる緊急相談窓口の設置への要望が非常に高い(育成会・守る会ともに多数の要望あり)。

👤 **重度障がいへの対応力強化と平時からの備え** 医療的ケアや行動障害等への専門的な受入体制の強化と合わせ、平時から緊急時を見据えた支援体制づくり(体験利用や日頃の情報共有)を進める必要がある。

📌 【まとめ・今後の対応】

本調査結果から、緊急時の受入に関して依然として大きな課題があることが浮き彫りとなりました。今後は、①調査対象をさらに広げて多角的な実態把握に努めるとともに、②今後設置予定のワーキンググループにおいて、本調査結果を基礎資料とし、具体的な拠点整備に向けた検討を進めてまいります。